

「研究と創造の精神」と「モノづくり」 赤れんがが便利

Information of Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology

特集 「百年俯瞰」トヨタグループ発祥 100年

Vol. 78



1941 (昭和16)年頃の豊田紡織株式会社・本社工場



トヨタ産業技術記念館



栄生の地より

トヨタ産業技術記念館 館長 飯島 修

1918年1月、ここ栄生の地で豊田紡織株式会社の創立総会が開かれました。

トヨタグループ発祥となる会社の誕生から百年目を迎えたこととなります。

当時の資料を見ると、発起人の一人である豊田佐吉の住所が会社と同じで、会社に住み込みで織機の研究開発に勤んでいたことが分かります。当館の南門を入れて左手にあるトヨタグループ館は豊田紡織の事務棟だった建物ですが、豊田紡織の誕生から8年後に豊田自動織機製作所、19年後にトヨタ自動車工業の創立総会が、この建物内で開かれ、時代が大きく動いていくこととなります。

「父在世時代から、何時か自動車製造をやって見たいと、父も常に語り、自分も忘れなかったのであります」トヨタ自動車工業発足時に発行された冊子で豊田喜一郎はこのように述べており、「自動車」が父子の夢だったことが窺えます。

さて、去年は46万人を超えるお客様にお越しいただきました。心より感謝申し上げます。

開館から24年目を迎える訳ですが、お客様に楽しく快適に過ごしていただけるよう、傷んできた建物、設備、展示物の整備を急ピッチで進めております。その一環として、現在、正面玄関周辺の赤れんがの壁の修復工事を行っています。

この赤れんがの壁は、1914年竣工の紡績第一工場のもので、貴重な産業遺産です。

展示関連では、モノづくりをより身近に感じていただけるよう、鍛造、鋳造、切削を実演するコーナーをリニューアルしました。自動車館のメインボデー組付溶接の技術展示も新しくしました。



そして、1月より、竹中大工道具館の巡回展「千年の甍 古代瓦を葺く」が始まりました。高浜市やきものの里かわら美術館のご協力も得ながら、瓦に込められたモノづくりの心に触れていただきたいと思います。

グループ発祥百年の年。ここ栄生の地に、最善を尽くしたおもてなしで皆様をお迎えできるようスタッフ一同努力を重ねて参りますので、本年もよろしくお願ひ申し上げます。



数字で見る 2017年



2017年 年間来館者

460,098人 ※過去最高
(前年比109.6%)

2017年 団体客／個人客比率

(団体客) **24.6%** (個人客) **75.4%**

2017年 外国人来館者比率

18% (2015年14%) ※当館来場者へのアンケート調査より

2018年 イベントカレンダー

冬休み発見☆体験ミュージアム

概要
852人参加。多くの小中学生にG1型の段ボールクラフトなどを楽しんでいただきました。

開催日
1/6(土)・7(日)



今年の様子

開館記念特別イベント

概要 入場無料とし、下記プログラムを含む楽しいイベントを開催します。
◎初代クラウン／初代カローラ／初代セリカ／MIRAI 同乗試乗会
◎AA型乗用車／G1型トラック走行披露
◎機織り体験
◎通常非公開エリアの特別ガイドツアー

開催日 6/9(土)・10(日)



昨年の様子

夏休み発見☆体験ミュージアム

概要
「モノづくり」の楽しさを体験できるイベントを開催します。

開催日
8/18(土)・19(日)



昨年の様子

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

竹中大工道具館巡回展「千年の甍 古代瓦を葺く」

概要 古代瓦の作り方、葺き方について建築の切り口から展示・解説。高浜市やきもの里かわら美術館による三州瓦についても展示・解説。

開催日 1/20(土)～3/11(日)

関連イベント

「鬼師による 鬼瓦製作美演」
1/27(土)、28(日)
3/4(日) 13:30～15:30



トヨタ技術会「アイデアコンテスト」作品展示会

概要 今秋実施のアイデアコンテスト出品品を展示します。

開催日 3/17(土)・18(日)

春休み発見☆体験ミュージアム

概要 「モノづくり」の楽しさを体験できるイベントを開催します。

開催日 3/31(土)・4/1(日)

トヨタコレクション企画展

概要 蓄音機が進化を重ねて音楽鑑賞の道具になっていったその変遷と楽しみ方を紹介します。

開催日 9月22日(土)～11月4日(日)(予定)



2012年の様子

■ 開催日、内容などは変更となる場合がありますので、最新情報は当館ホームページをご覧ください。

2017年 学校行事(小・中・高・大ほか)来館者

29,130人 **748組**
(前年比92.8%) (前年比100.7%)

2017年 ガイドツアー参加者／音声ガイド貸出者

16,558人 **7,425人**
(前年比113.5%) (前年比155.9%)

2017年 外国人来館者の国別内訳

1位 中国・台湾 2位 韓国 3位 米国 ※当館来館者へのアンケート調査より
32.0% **14.7%** **6.8%**

1994年6月開館からの累計来館者

5,432,334人

百年俯瞰

トヨタグループが織り成す絆物語

—→→ 第1回 ←←—

《豊田紡織(株)と(株)豊田自動織機製作所の設立》

今年トヨタグループ発祥100年となる年です。

グループの変遷を俯瞰することで、各社の成り立ちと役割、さらにはグループの理念共有の歩みを年間を通じて全3回シリーズで特集します。

個人経営を改組して豊田紡織(株)を設立

トヨタグループの発祥は、1918(大正7)年にまでさかのぼります。トヨタグループの創始者・豊田佐吉が1911年、栄生の地に豊田自働織布工場を設立。1914年に紡績工場を増設し、豊田自動織機工場と改称しましたが、1917(大正6)年頃には個人経営でありながら約1,000人の従業員を擁する愛知県でも有数の規模の会社となっていました。個人経営では円滑に経営することが難しくなったため、1918(大正7)年1月30日^{※1}、株式会社に改組し、豊田紡織株式会社(現・トヨタ紡織)の設立に至ったのです。

資本金は500万円。株主はわずかに25人で、株式総数の60%を佐吉をはじめとする豊田家11人が保有していました。社長

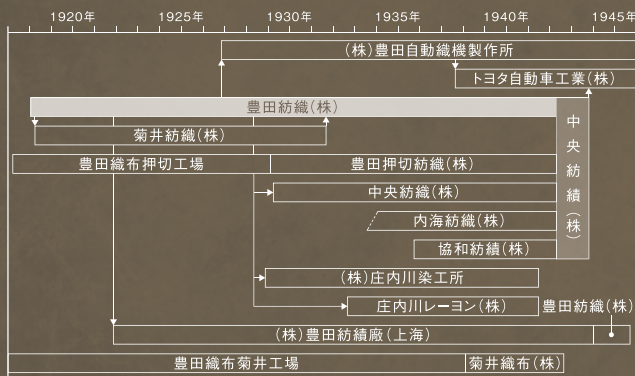
※1:1月30日は登記日、創立総会は1月29日

には佐吉が就任し、常務に豊田利三郎、取締役役に藤野亀之助、監査役には利三郎の実兄・児玉一造がそれぞれ就任しました。

なお、トヨタ産業技術記念館にある「トヨタグループ館」は、1925(大正14)年に建て替えられた豊田紡織(株)本社事務棟を建設当時の状態に修復したものです。ここでは、(株)豊田自動織機製作所(現・(株)豊田自動織機)やトヨタ自動車工業(株)(現・トヨタ自動車(株))の創立総会が開催された場所でもあります。

豊田紡織(株)の設立から2ヵ月経たない1918(大正7)年3月10日には、菊井紡織(株)が設立されます。これは、紡織事業の拡大をめざして会社を設立したもので、資本金は200万円^{※2}とし、豊田関係事業の従業員に株式を優先的に割り当て、好不況に関わらず毎期10%程度の配当を実施し、労使協調による会社経営を目指します。社長職は設けず、佐吉の次弟・佐助が専務取締役に就任し、実質的経営者となります。

※2:1920(大正9)年に200万円を増資



豊田関係会社系統図



菊井紡織(株)
(1918(大正7)年3月10日設立)

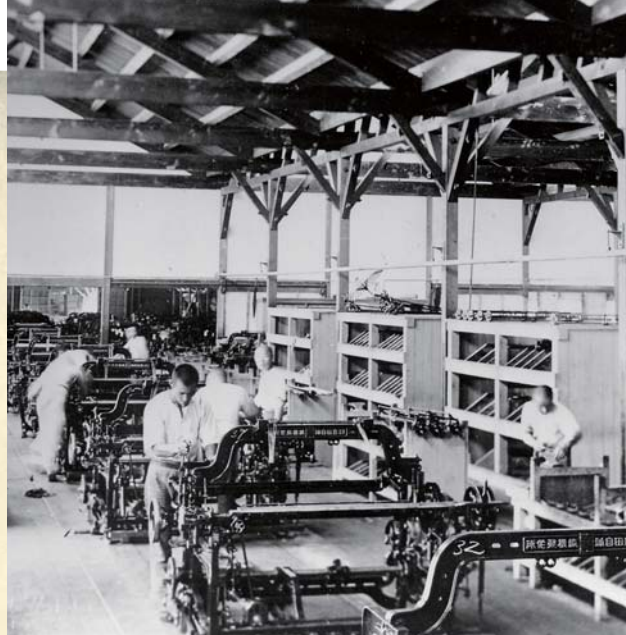
中国に進出し(株)豊田紡織廠を設立

豊田紡織の経営が安定すると、佐吉は上海で本格的かつ理想的な紡織一貫工場を建設するため、上海を視察します。佐吉はこの事業に全力を傾け、苦勞の末、用地取得に成功。1920(大正9)年に工場が稼働後しばらくは佐吉の個人的な事業として経営されましたが、1921(大正10)年11月に改組して、(株)豊田紡織廠を設立。遠縁にあたる西川秋次が実質的な経営を任されました。

豊田自動織機製作所の設立

豊田紡織(株)では、紡織一貫で織機の徹底した営業的試験を繰り返すことで、1924(大正13)年11月、ついに「完全なる自動織機」G型自動織機を完成させます。設立当初からの研究・試験費も含め豊田紡織(株)が自動織機完成のための試験準備に投じた資金は、巨額に及びました。そして、既に刈谷に設立していた自動織機の試験工場の隣地に1926(大正15)年11月18日、(株)豊田自動織機製作所を設立し、機械製造事業の本格展開を開始。この新たな会社の実質的な経営は、社長の利三郎と常務の喜一郎が担うこととなりました。

また、定款の中で「発明研究をなすこと」を会社経営の目的の一つに据えていることが大きな特徴です。発明と営利の矛盾に幾度も悩まされてきた佐吉の体験に基づいたものでした。以来、この思想は今日に至るまで一貫して受け継がれ、後に

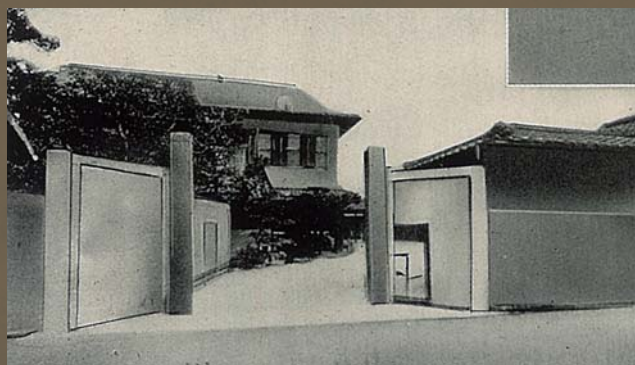


(株)豊田自動織機製作所組立工場

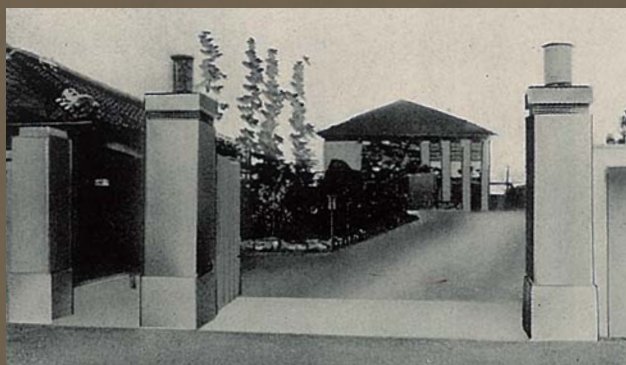
誕生するトヨタグループ各社の定款にも定められて、事業発展の原動力となりました。

トヨタグループ形成の萌芽

1930(昭和5)年10月30日、佐吉は63年の生涯を閉じます。豊田系会社は精神的支柱を失いますが、グループ形成は着実に進展。翌1931(昭和6)年8月1日、菊井紡織(株)は世界恐慌時の綿業不況に伴う経営合理化のため豊田紡織(株)に吸収合併されますが、1932(昭和7)年頃の豊田系会社は、豊田紡織(株)、(株)豊田紡織廠、豊田押切紡織(株)、(株)豊田自動織機製作所、(株)庄内川染工所、庄内川レーヨン(株)、中央紡織(株)、豊田織布菊井工場と8社を数え、トヨタグループの形が芽吹き始めたといえます。そしてこの後、グループの理念共有の基礎が築かれることとなるのです。(第2回につづく)



豊田押切紡織(株)
(1929(昭和4)年1月30日設立)



中央紡織(株)
(1929(昭和4)年3月19日、豊田紡織と東洋棉花の折半出資で設立)

繊維機械

「知って納得、ジャカード織りの秘密」

つう
通の目線で繊維機械の仕組みを分かりやすく解説する「PROFESSIONAL EYE」。

繊維機械の第1回はジャカード織機を紹介します。

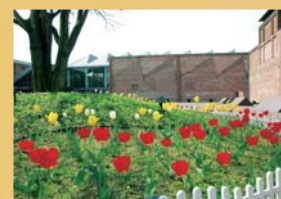


ジャカード織機・全景(当館展示物)

模様や絵、写真を織物として再現するジャカード織り。通常の織物は、たて糸を枠で上下させることで、たて糸とよこ糸が規則正しく交差していますが、ジャカード織りの場合は、たて糸を1本ずつ個別に動かすことによって、模様や絵、写真を織り出します。

当館に展示しているジャカード織機は、よこ糸を「白、赤、黄、緑、青、黒」の順にそう入。一方、たて糸は白と黒を交互に配列。たて糸を個別制御することで、表に現れるよこ糸の色目によって、絵や写真を再現して織り出します。その原理は、一つひとつの織り目(ドット)を重ねることによって表現するというもので、基本的にテレビと同じです。

ジャカード織りの歴史は古く、もともとは、小さな孔を開けた紋紙を使ってたて糸を1本ずつ動かして、自動的に模様を織り出す仕組みでした。紋紙はいわばたて糸を制御するプログラムで、現在のジャカード織機ではDVDやメモリーカードなどが使われています。



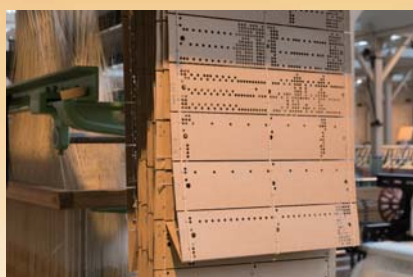
元の写真



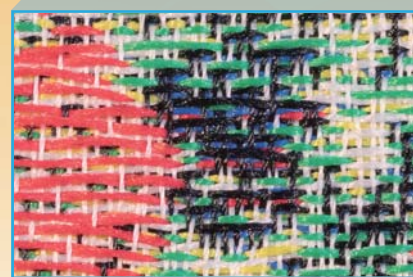
写真が再現されているジャカード織物。
下記写真は□部分を拡大。



よこ糸は「白、赤、黄、緑、青、黒」の6色を使っています。



旧来の紋紙によるジャカード織機。(当館展示物)
ジャカードとはフランス人の発明者・ジャカール氏に由来します。



よこ糸の色を出したい時はたて糸が下に、逆に隠したい時はたて糸が上になるよう、たて糸を個別に動かして、色を自在に調節して写真を再現しています。

自動車

「今や当たり前のパワステ、その変遷は？」

自動車館の展示の中から、
第1回はパワーステアリング(以下、パワステ)機構を紹介します。



ステアリングの変遷(当館展示物)

パワステをトヨタで初めて採用したのは、ちょうど50年前の1968年3代目クラウン。前年のフルモデルチェンジで「白いクラウン」キャンペーンを展開、個人顧客を増やしたモデルですが、豪華な装備や2リッター直列6気筒エンジンを搭載するなど旧モデルに比べ大きく重くなったため、当初、ステアリング機構は新しく「RBS※1」タイプが採用されました。これは機構内のギヤの内部で小さなボールを循環させることでギヤ間の接触面積を小さくでき、操舵力が軽くできる効果を狙ったものでした。

そして、その翌年、さらに操舵力を軽くするため、エンジンで油圧ポンプを駆動し、その圧力でパワーアシストする「油圧式パワステ」が開発され採用されたのです。

しかしながらこのタイプは、80年代以降急速に見なくなります。

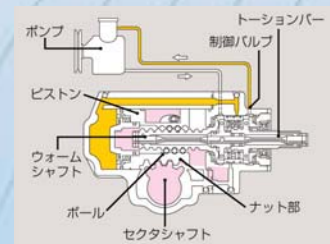
自動車は顧客の嗜好に合わせ多様化が進み、なかでも広い室内空間が得られる「前輪駆動(FF)車」がファミリーカーの主流となってきました。そこでステアリング機構にも小型・軽量化が求められ、新しいタイプの「ラック&ピニオン」が登場します。

FF車の場合、エンジンやミッション、アクスルといった駆動部品が前輪付近に集まりハンドルが重くなります。そこでこのタイプのパワステが開発され、トヨタでも81年より採用。今でもこのタイプが主流となっています。

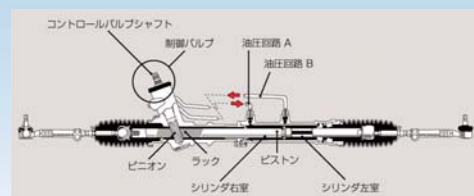
その後、90年代後半になり、地球環境にやさしいクルマづくりが求められる時代になると、低燃費車が人気を博します。97年のハイブリッド車プリウスを境にモーターでも走る車が量産車として登場すると、パワステもエンジンを利用する油圧式から電気モーターを使った「電動式パワステ」に移行するようになりました。そして現在では、コンパクトに配置できる電動式の利点を生かし、スペース効率に厳しい軽自動車にも採用されるようになりました。

今では当たり前となったパワステ、その普及の裏にはこのような技術の進化があったのです。 ※1 Recirculating Ball Screwの略

RBSタイプ



ラック&ピニオンタイプ



竹中工道具館巡回展「千年の^{いらか}葺^{かわら} 古代瓦を葺く」

開催期間 2018年1月20日(土)～3月11日(日)

場所/トヨタ産業技術記念館 特別展示室

開館時間/9:30～17:00(入場は16:30まで)

入場料/無料(常設展は別途入場料が必要)

主催/竹中工道具館 共催/トヨタ産業技術記念館

特別協力/山本瓦工業株式会社、高浜市やきもの里 かわら美術館

協力/鶺鴒工舎、元興寺、興福寺、竹中工務店、橘寺、唐招提寺、東大寺、法隆寺、薬師寺

関連イベント

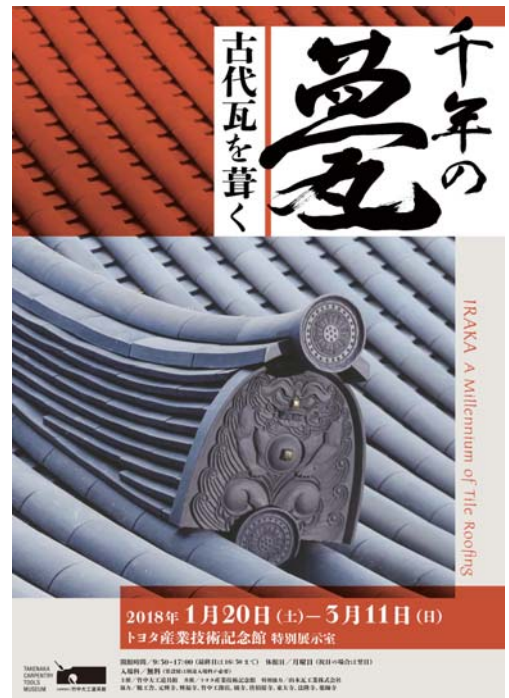
「鬼師による 鬼瓦製作実演」

日時/1/27(土)、28(日)

3/4(日) 13:30～15:30

場所/当館ホールA

元興寺極楽堂と禅室の屋根には千四百年の風雪に耐えて今なお現役で建物を守り続けている飛鳥時代の瓦があります。一体誰がどのようにして作り上げたのでしょうか。本展ではそうした長寿命の古代瓦にスポットをあて、瓦のつくり方、葺き方について建築という切り口から読み解いていきます。また、普段屋根の上にあつてなかなか見ることのない迫力ある鴟尾や造形豊かな鬼瓦、様々な紋様の軒瓦も目の高さでご覧いただけます。また、瓦の一大産地として知られる「三州瓦」の展示も行います。瓦に込められた職人の心意気をぜひ会場にてご覧ください。



屋根の葺き方模型(現代と古代の葺き方)



元興寺の平瓦と丸瓦(元興寺蔵)



東大寺の鬼瓦(山本瓦工業提供)

館内の各所リニューアル工事が完了



金属加工技術の実演

切削実演用の加工機を一新。鋳造実演で出来上がったミニチュアシリンダーブロックを使ってフライス盤による平面加工とボール盤を使った穴あけ加工をお見せします。モノづくりをより身近に感じていただけたと思います。



メインボデー組付自動溶接機

高い組付精度を保証しながら生産性を上げるために、1987年から導入したフレキシブルボデーラインの現代版です。ダイナミックなボデー組付がご覧いただけます。



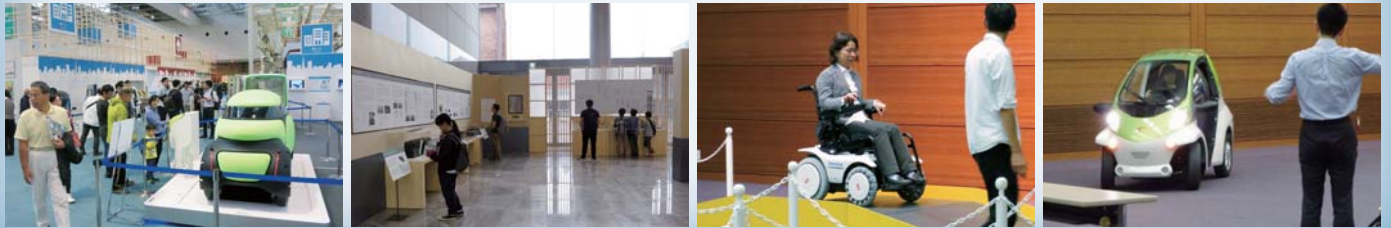
Today for Tomorrow

最新の環境車『MIRAI』・『プリウスPHV』を展示。トヨタの「環境チャレンジ2050」の取り組みも紹介しています。

2017年 10月7日(土)~12月10日(日)

豊田佐吉生誕150周年特別企画 第五弾 特別展 「引き継がれる佐吉の志 ~私たちの暮らし、トヨタグループと~」を開催

「人々の生活を豊かにしたい」という豊田佐吉の志と、それを受け継ぐトヨタグループ各社の取り組みを紹介。展示車両の体験試乗会なども開催し、約9万人の方にご覧いただき、好評のうちに閉幕しました。



2017年 11月12日(日)

豊田佐吉生誕150周年特別企画 鈴木一義氏記念講演「佐吉の生きた時代とその夢」

トヨタ産業技術記念館の設立時にも関わっていただいた国立科学博物館・産業技術史資料情報センター長の鈴木一義氏を招いて、豊田佐吉生誕150周年記念行事の一環としてご講演いただきました。以下はその要旨です。

【要旨】江戸時代に生まれ、明治・大正を生き、昭和に没した豊田佐吉。**なぜ、佐吉が生まれたのか?**明治維新という大きな時代変革の中で、なぜ、日本が奇跡とも呼ばれる近代化を成し遂げたのか?そこには、江戸時代に育まれた独自の大衆文化、自然の恵みと天災、平和利用を目的としたモノづくり、が大きく関わっている。

日本は、一般の人たちが、日本語で世界中の知識と知恵を学べる環境を作ってきたことに、もっと注目していい。日本のノーベル賞受賞者も、そのほとんどは日本語で発想しているという。翻訳本などを通じて得た知識を、世のため人のために一般大衆向けに工夫の限りを凝らしていく、これこそが日本のモノづくりの神髄である。スカイツリーと五重塔が同じ耐振構造を持っていること。初代iPodが、燕市の伝統的な磨き屋に発注されたこと。日本人がロボットに親近感をいだくのも文楽人形やからくり人形のお蔭である。**日本人こそが日本に気づいていない。**

尋常小学校の4年間しか学校教育を受けていない佐吉は、**学問から出たのではなく、日本の風土から生まれ出たものである。**人と自然が大切にされた江戸時代から受け継がれて来た「土台」を、佐吉は見出していた。自分たちが無意識のうちにこの「土台」に立脚して発想していたことを、これからは、もっと意識に上らせることが大事である。

自分を知り、他を知った上で、自分を語る。「障子を開けてみよ。外は広いぞ」は、そういう文脈の中でこそ生きる言葉である。日本語で先とは過去のことも表す。先を見るとは過去を調べて将来を考えるということ。それは、実は、佐吉も喜一郎もやってきたことで、そこに、私は、未来の日本のモノづくりの「光」を見る。**日本は、オンリー1を目指して、相手のニーズを徹底的に考え抜き、江戸時代260年の知恵を今に活かしていくべきだと思う。**

※当講演会の動画を、当館HPよりご覧いただけます。



館内隠れ スポット紹介

vol. 1



トヨタグループ館



※館内の隠れスポットに
焦点を当てる新シリーズ。
今回はトヨタグループ館担当の
加藤みゆきが、案内します。

SPOT 1 カウンター



入口内側には引き出しがあり、当時はここに
座ってお客様とやり取りをしていました。ガラス
は当時のもので、少し凸凹していて、向こう側
の景色が歪んで見える部分もあります。今は
製造されていない貴重なガラスです。

SPOT 2 タイムレコーダー



推定1943(昭和18)年頃の天野製作所
(現・アマノ(株))製のもの。製造元にも、
現物も取扱説明書も残っていない貴重な
型で、おそらく現存している唯一の
もの。ゼンマイを巻くことで今でも現役。
グループ館とともに時を重ねたレトロな
雰囲気は必見です。



SPOT 3 当時の書類



ショーケースにある書類は当時の豊田佐吉や
トヨタグループの軌跡。中でも、事蹟書と織
機開口研究図面(環状織機)は、佐吉の自
筆。AA型乗用車カタログにある「一億円」
という記載は、1930年代当時、輸入に頼っ
ていた乗用車を国産車(トヨタ車)にすれば、そ
だけ国益になるという例えでもありました。



SPOT 4 金庫



1階奥、階段下に置いてある大きな古い
金庫。当時、火災から大切な書類を守る
ため、金庫は地下室に保管されていました。
後日談ですが、鍵屋さんに依頼して開け
てもらったところ、中身は空だったそう
で、期待に胸を膨らませていた関係者は
ガッカリしたようです。



SPOT 5 外壁



グループ館の外壁は、石ではなく、コン
クリートです。コンクリートが乾く前に水
をかけながらブラシで擦り、表面に砂利を
浮き出させる「洗い出し工法(擬石)」が
用いられています。当時、流行の技法で
したが、現在では技術を持った職人はごく
僅かとなり、貴重なものとなりました。



「豊田紡織株式会社誕生」

「豊田紡織 株式会社史」P.20より 1953(昭和28)年4月発行

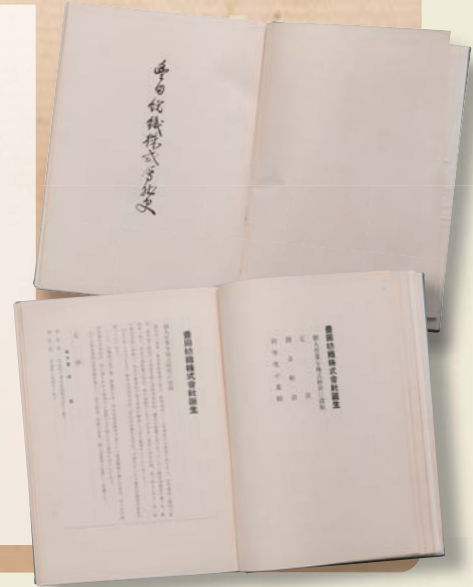
個人営業を株式経営に改組

豊田氏の事業、豊田自動織布工場は、欧州戦争といふ未曾有の大好況に恵まれて、逐年発展と膨脹を重ね、最早個人経営では到底円滑に運営出来ぬ程、^{ほうだい} 膨大な規模となった。そこで一般外来資本を混へず、豊田氏一族と、親友の藤野亀之助氏、新たに縁続きとなった児玉一造氏の参加を得、全く水入らずの一族一統で株式会社を組織し、従来の豊田氏の個人事業を継承して之を經營することゝなった。

大正七年一月二十九日、資本金五百万円也(内払込金参百万円也)で創立せられた豊田紡織株式会社^{が即ちこれである。}

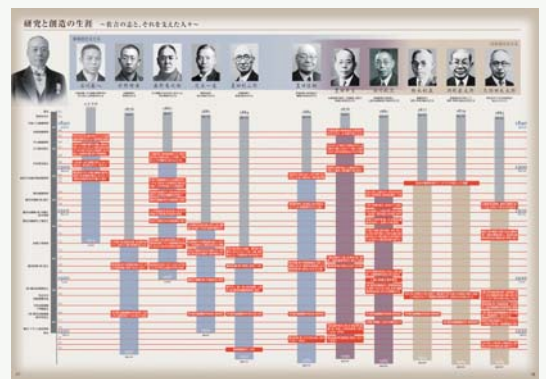
こゝに、紡機参万四千錠、織機壹千台、男女従業員約壹千名という事業陣容を擁した当社、即ちわが豊田紡織株式会社は、既に築かれたる堅実なる基礎の上に健かなる誕生を見たのである。

解説 豊田紡織株式会社は、1942(昭和17)年に解散しましたが、当時、トヨタグループ各社の株式を多数所有しており、トヨタグループの母体的存在でした。



温源知新 研究と創造の生涯 ~佐吉の志と、それを支えた人々~

豊田佐吉生誕150周年を記念して、2017年通年で「赤れんが便り」に特集した「温源知新」を加筆修正して、一冊にまとめました。全20頁、A4版、フルカラー、定価300円(税込)。佐吉の生涯をコンパクトに知りたい方におススメです。当館ミュージアムショップのみで販売しております。



館員のこだわり vol. 1

テーマ 防災

※当館の運営スタッフの思いを新シリーズで紹介していきます。



防災担当 加藤 崇根

博物館の防災は、不特定多数のお客様を対象としたものでなくてはなりません。当館では、約2割が海外のお客様であるため、避難訓練は、多言語対応(日・英・中・韓)を意識したものとなっています。また、私自身、東京で東日本大震災を体験し、当時は、携帯電話もインターネットも通じず、事務所にTVもなかったため、正確な情報を知る手段がなく、大変不安な思いをしました。そのため、先ず当館では、エントランスの大型モニターでTV放送を流し、大勢のお客様に正確な情報をお伝えできるようにしました。非常用発電機、断水時の携帯トイレや非常食も準備し、お客様の一次的な避難滞在にも対応できるよう準備しています。今後も避難訓練を通じ、館の防災レベルを向上させていきたいと思ひます。

INFORMATION

都合により、変更させていただく場合がございます。詳しくはトヨタ産業技術記念館までお問い合わせ下さい。

週末 Workshop ワークショップ

次世代を担う子どもたちが「モノづくり」に興味を持ち、豊かな創造性を育むきっかけとなる各種プログラムを用意しています。ぜひご参加ください。

他、多数プログラムを開催

受付期間
3月開催分 2/1(木)~2/13(火)
4月開催分 3/1(木)~3/14(水)

参加申し込みはホームページから

トヨタ産業技術記念館 検索

参加費 500円(入場料別途必要) 問い合わせ 052-551-6003

参加希望者が定員を上回る場合、抽選となります。詳細はホームページをご覧ください。



無料

3/3土 なごや折り紙建築をつくろう!

3/4日 ビーズ編みと天然石のストラップをつくろう☆

3/10土 純銀ねんどでアクセサリをつくろう

3/24土 よく飛ぶ紙飛行機をつくろう!

ミュージアム ショップ

ペカンナッツ ショコラが新発売

・75g スタンドパック
¥540(税込)



国内外から高品質の素材を選び、手づくりの工程にこだわった商品です。ローストした大粒のペカンナッツをベルギー産クーベルチュールで丁寧に包みました。キャラメル、ココア、抹茶、和三盆、4種類の味。東海地区では、当店のみの扱っています。

図書室 体験教室 連鶴をおろそう!

- 3/24(土) 1日2回(13:00~14:00、15:00~16:00)
- 当日先着20名/回
- 参加費無料
- 対象は小学生以上、大人の参加も歓迎
- 江戸時代から続く伝統的な折り方を習って、1枚の和紙で連なった鶴を完成させましょう!



RESTAURANT Brick Age

レトロでシックな赤れんがの空間で、シェフが腕を振るったメニューをお楽しみいただけます。



ティータイム
限定メニュー
(14:00以降)

静岡県産「とろろポーク」使用
第4弾 SAKICHIランチ
¥1,500
(税込)

1日限定20食の特別メニューです! ドライフルーツ入り紅茶「フルーティ」380円

【営業時間】11:00~17:00(16:30ラストオーダー) 【TEL】052-551-6243

※当館Webサイトには現在のメニュー情報や団体様用お弁当情報など、詳しく記載されております。
※17:00以降は貸切パーティも可能です。ご予算や内容など、ぜひご相談下さい。

「赤れんが便り」読者アンケートにご協力ください!

当館では、より魅力的な「赤れんが便り」を目指し、読者アンケートを実施いたします。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で10名様に「PILOT製オリジナルシャープペン」をプレゼントいたします。

- アンケートは、パソコン、スマートフォンからご回答ください。
<https://www.tcmiit.org/form/180201survey/>



ご案内

- 開館時間 / 9:30~17:00(入場受付は16:30まで)
- 休館日 / 月曜(祝日の場合は翌日、但し、5/1(月)は開館)、年末年始
- 入場料 / 大人500円・中高生300円・小学生200円
- 団体割引あり
- ※学校行事での入場は半額(小学生・引率の先生は無料)
- ※65歳以上の方は無料
- ※障害者手帳をお持ちのご本人とその付添の方1名は無料

交通

- 名鉄 / 名古屋本線「栄生駅」下車、徒歩3分
- なごや観光ルートバス「メーグル」/ 名古屋駅バスターミナル11番のりば「トヨタ産業技術記念館」(敷地内) 下車すぐ
- 「名古屋駅」からタクシー利用で5分
- 無料駐車場(乗用車220台、大型バス10台)



トヨタ産業技術記念館
〒451-0051 名古屋市区則武新町4丁目1番35号
TEL:052-551-6115 FAX:052-551-6199



フォロー募集中!



Webサイトはこちら!
<http://www.tcmiit.org/>

